

グラフとネットワーク (第10回)

<http://coconut.sys.eng.shizuoka.ac.jp/gn/>

安藤和敏 (静岡大学工学部)

2005.12.15

2.1. 木と道

2.1.1. 最短路問題 (ダイクストラ法)

有向グラフ $G = (V, A)$ 上の各枝 $a \in A$ に対して, その長さ $l(a)$ を指定する枝長関数 $l: A \rightarrow \mathbb{R}$ が与えられているとする. このようなネットワークを $\mathcal{N} = (G = (V, A), l)$ と書くことにする.

図 2.1 で示されるグラフ G と枝長関数 l を考える.

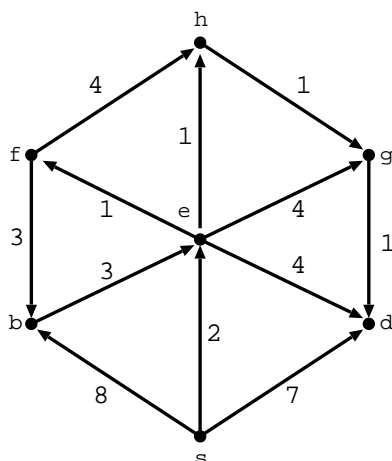
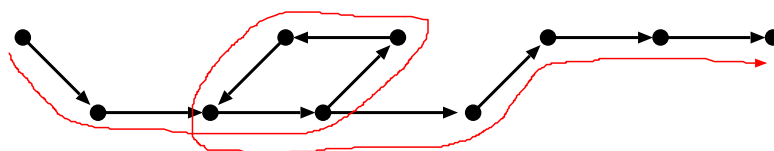


図 2.1: G と l



G 中の有向道

$$P = (v_0, a_1, v_1, a_2, v_2, a_3, \dots, a_k, v_k)$$

に対して, $\sum_{i=1}^k l(a_i)$ を P の長さと呼ぶ. 最短路問題 (shortest path problem) とは, 与えられた 2 点 $u, v \in V$ に対して, u から v への長さが最小の有向道を見出す問題である.

点集合上で定義される関数 $p: V \rightarrow \mathbb{R}$ をポテンシャル (potential) と呼ぶ.

補題 2.1: 任意なポテンシャル $p: V \rightarrow \mathbb{R}$ に対し, 関数 $l_p: A \rightarrow \mathbb{R}$ を

$$l_p(a) = l(a) + p(\partial^+ a) - p(\partial^- a) \quad (2.11)$$

によって定義する. \mathcal{N} の中の点 u から v への任意な有向道 P に対して, 関数 l と l_p に関する P の長さをそれぞれ $l(P)$ と $l_p(P)$ とすると,

$$l_p(P) = l(P) + p(u) - p(v) \quad (2.12)$$

が成り立つ. \square

補題 2.2: P を点 u から点 v への有向道とする. もし, あるポテンシャル $p: V \rightarrow \mathbb{R}$ が存在して, (2.1) で定義される l_p が非負関数であり, かつ, P 上の各枝 a に対して $l_p(a) = 0$ であるとする, P は点 u から点 v への最短路である.

(証明) $l_p(P) = 0$ である. その一方で l_p は非負関数, すなわち, $l_p(a) \geq 0$ ($a \in A$) であるから u から v への任意の有向道 P' に対して $l_p(P') \geq 0$ である. 補題 2.1 より,

$$\begin{aligned} l(P) &= l_p(P) - p(u) + p(v) \\ &= 0 - p(u) + p(v) \\ &\leq l_p(P') - p(u) + p(v) \\ &= l(P'). \end{aligned}$$

したがって, P は u から v への最短路である. \square

すべての枝の長さが非負, すなわち, $l(a) \geq 0$ ($a \in A$), であるときに使える解法としてダイクストラ法が有名である. これは, 与えられた 1 点から残りのすべての点への最短路を求める.

Algorithm 1 ダイクストラ法 (始点を v_0 とする)

Require: 単純な有向グラフ $G = (V, A)$, 枝長関数 $l: A \rightarrow \mathbb{R}_+$.

Ensure: v_0 からその他の各点 v への最短路, 及び, 最短路長.

1: $U \leftarrow \{v_0\}$, $W \leftarrow \emptyset$, $p(v_0) \leftarrow 0$, $p(u) \leftarrow +\infty$ ($u \in V \setminus \{v_0\}$).

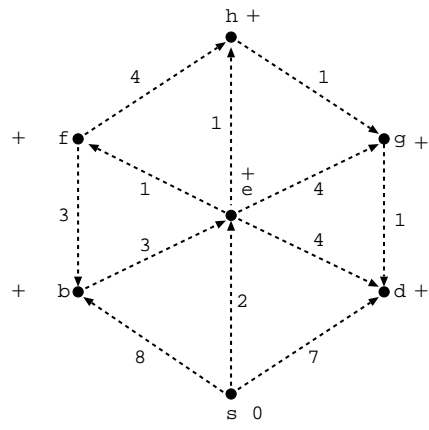
2: $U = \emptyset$ ならば停止.

そうでなければ, U の点のなかで p の値が最小であるものを 1 つ選び, それを w とする. 点 w から出る枝 $a = (w, x)$ で $x \notin W$ であるような各枝に対して, 以下の (*) を実行する.

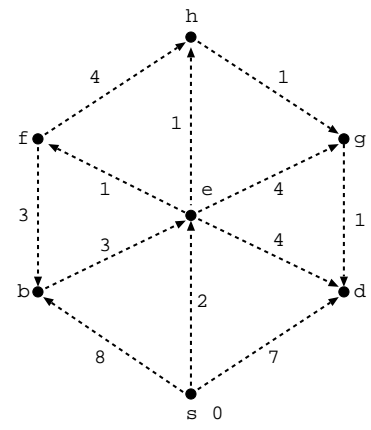
(*) $p(x) > p(w) + l(w, x)$ ならば
 $q(x) \leftarrow w$, $p(x) \leftarrow p(w) + l(w, x)$,
 $U \leftarrow U \cup \{x\}$.

3: $W \leftarrow W \cup \{w\}$, $U \leftarrow U \setminus \{w\}$ として Step 2 に行く.

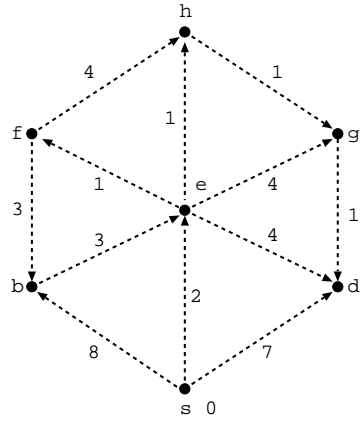
アルゴリズムの動作を例題を用いて見てみよう.



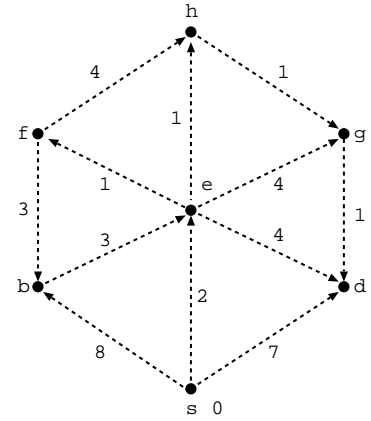
Step 1 の終了時



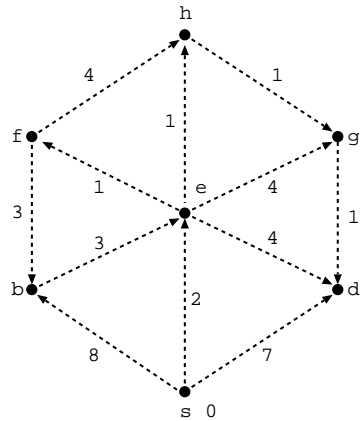
1 回目の Step 2 の終了時



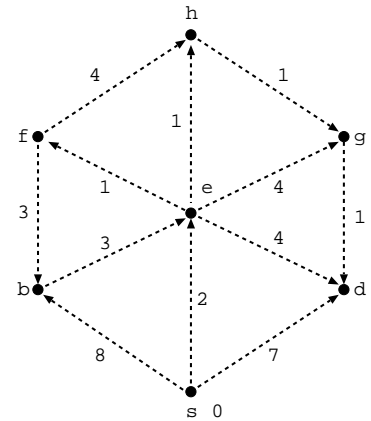
2 回目の Step 2 の終了時



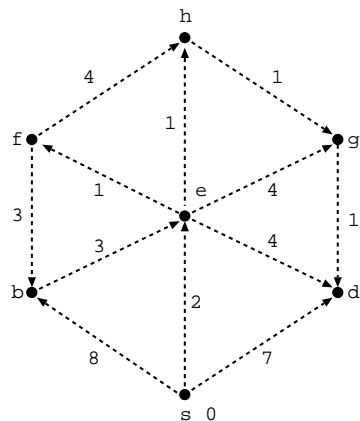
3 回目の Step 2 の終了時



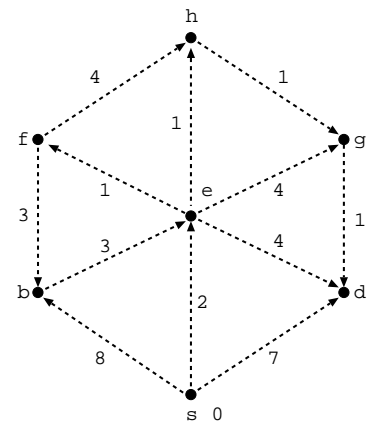
4 回目の Step 2 の終了時



5 回目の Step 2 の終了時



6 回目の Step 2 の終了時



7 回目の Step 2 の終了時